

横須賀市廃棄物減量等推進審議会（第67回）議事概要

- 1 日 時 令和元年(2019年)11月15日(金) 午後2時00分から4時00分まで
- 2 場 所 横須賀市役所 消防局庁舎4階 災害対策本部室
- 3 出席委員 安部委員、上田委員、織田委員、北村委員、國分委員、佐藤(明)委員、佐藤(幸)委員、鈴木委員、関矢委員、高橋委員、藤田委員、米村委員、渡辺委員
- 4 事務局 資源循環部 山口(里)部長
南処理工場 山口(克)副部長
資源循環総務課 高野課長、宍戸課長補佐、菱沼係長、大野田主任、大野
資源循環推進課 関澤課長、小谷係長、高久係長
廃棄物対策課 坂下課長、竹見係長
資源循環施設課 高橋課長
広域処理施設建設室 上阪室長
リサイクルプラザ 大石館長
資源循環久里浜事務所 山本所長
- 5 傍聴者 なし

6 議事内容

開会

副市長が委員へ委嘱書を交付した。

事務局が定足数である半数以上の委員の出席を確認し、会議の成立を報告した。

事務局が各委員を紹介した。

事務局が事務局職員を紹介した。

委員の互選により、佐藤(幸)委員が委員長に選任された。

委員長が米村委員を委員長職務代理者に指名した。

議事

(1) 廃棄物減量等推進審議会スケジュールほか

○佐藤(幸)委員長 それでは、議事に入りたいと思います。次第の(1)廃棄物減量等推進審議会のスケジュールにつきまして、今後どのように審議会を進めていくのか、事務局の方からご

説明をお願いいたします。

○事務局 （資料1に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長 今年の10月から8回にわたり審議をし、次回に諮問、令和3年の5月に答申して次年度の改定につなげるというスケジュールの様です。このスケジュール案に関しまして、ご質問がある方いらっしゃいますか。今のところ無いようですので、また全体の所でご質問等があれば、改めて出させていただきたいと思っております。

(2) ごみ処理基本計画の進行管理（平成30年度実績）

○佐藤(幸)委員長 次に議題の(2) ごみ処理基本計画の進行管理について事務局の方から説明をお願いいたします。

○事務局 （資料2に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長 進行管理の説明に関しまして、質問やご意見等がございますか。それでは1ページの実績目標値との比較について、目標年度までに今の進捗の仕方では達成可能なものと努力が必要なものを示し、努力が必要なものに対してどのような対策を行うのかについて、少し説明していただけますか。

○事務局 総排出量とごみ量につきましては、年々減少しておりますのでこのまま順調にいけば目標を達成できると思っておりますが、集団資源回収量につきましては、新聞等が減少していることから、目標達成に向け努力が必要であると考えます。

1人1日排出量につきましても、平成30年度は740gと基準年度に比べ10g減少しましたが、目標値は695gですので、まだまだ努力が必要です。

焼却量や埋立量につきましては、未だ大幅な削減が必要ですが、事業系植木剪定枝等を民間資源化施設に移行する施策や、横須賀ごみ処理施設の稼働に伴い、不燃ごみを選別施設で処理し、資源化する施策、プラスチックを埋め立て処理から焼却処理に変更する施策等を行いますので、今後大幅に減少すると見込んでおります。

資源化量につきましては、横須賀市は全国平均と比較して高い位置にはありますが、36%と高い目標値を設定しておりますので、達成に向け努力が必要です。こちらも事業系剪定枝や不燃ごみの資源化施策の実施により今年度よりは高くなるのではないかと考えています。

○佐藤(幸)委員長 総排出量やごみ量等はこのままの努力で達成出来そうですが、集団資源回

収量と1人1日排出量は、今後大きな取り組みが必要となる可能性があるという事です。集団資源回収量については、昨今の生活スタイルに変化があるかと思いますが、特に紙類についてはペーパーレスの流れがだいぶ影響しているのではないかと思います。

大筋の方向性を報告してもらいましたが、もう少し聞いてみたいということはありませんか。

○米村委員 集団資源回収量について、現在の減少傾向を努力でどうにかできるのか、それとも構造的に変化していてこれ以上増やしていくのは難しいのかということ、藤田委員が現場で感じられているのではないかと思いますので、教えていただきたいと思います。

○藤田委員 資源回収で最も回収量の減りが大きいのは新聞等の紙類です。新聞や雑誌は急激に減少しており、業界では新聞は2040年にゼロになると計算されています。このまま新聞が減少すると2040年には販売店が無くなり、雑誌や漫画はスマートフォンで読めるような時代ですので、書店がだいぶ少なくなると思います。但し段ボールは、ネット通販等の普及から増えることはないかもしれませんが減ることもないように思います。資源回収は紙が主力なので、数量を増やすのは限界かなと思います。回収量はこれからも減少すると思いますので、来年度は1万8千トン程度まで落ちるのではないのでしょうか。資源回収は専ら物を対象としているので、新たな回収品目として追加できるものが無いというのが難しいところです。また、高齢化に伴い回収場所が増えており、定期的に全ての回収場所を回ることに苦勞しておりますが、回収場所に出せないのは仕方がないことなので、応援する思いで今後も続けていこうと考えています。

○鈴木委員 9月まで企業活動をしていたのですが、本や新聞を読まなくなったというのは感じました。特に新聞の量が減ったというのはうなずけます。

○高橋委員 藤田委員からお話があった通り、自分の生活や、自分が出すごみに対してもそのような傾向にあるのかなと思いますが、私もタブレットで本を読むのは得意ではないので本は買ってしまいます。

○國分委員 私の町内では衣類が目立つようになりましたが、衣類はいかがでしょうか。

○藤田委員 衣類は紙類と違い、買われたものがすぐに資源回収に出されるのではなく、家で一定期間保管されてから資源回収に出されるため、回収量が読めません。そのため、ある年は爆発的に回収量が増えても、次の年は急激にと下がるということも考えられます。また、回収された衣類の中で未だ着られるものは今まで輸出していましたが、受入先が少なくなっており、動きが悪くなっているのが現状です。

○上田委員 うちの町内では、資源回収に出された数字を毎月役員会で把握しています。今か

ら 10 年ほど前は、金額にして毎月およそ 3 万円から 4 万円程度でした。しかし現在は 1 万円前後です。去年が最低でしたが今年にきて金額が上がり始め、10 月現在で 1 万 2 千円程度になりました。その理由の一つとして考えられるのが、うちの町内で実施している「出前資源回収」です。月に一度、一人暮らしのお年寄りのお宅まで資源ごみの回収に行くという取り組みで、民生委員の方から、一人暮らしのお年寄りにこの取り組みについて伝えたところ、ほとんどの方から取りに来てくださいという依頼がありましたので、実施することになりました。朝 9 時に回収に行くと、既にお年寄りの方が準備してくれた資源ごみが外に用意されているのですが、回収を行う人は、回収に行った際に出されているものを回収するだけでなく、お年寄りに一声かけるようにしています。つまり、この取り組みは資源ごみを回収すると同時に、お年寄りの安否確認をするという目的も担っているのです。更に、若い方や婦人部の方がどこにお年寄りが住んでいるかということを知る機会にもなります。このような 3 つのメリットが、最近この町内会での資源回収の金額が上がっている一つの理由ではないかと思います。どのような問題でも、環境部だけでなく考えるのではなく、必要な部門と連携して取り組むことが大切だと思います。今回のような会議においても、それぞれ地域の方や関係団体の方が出席しているので、それぞれの立場と行政の立場が上手く歯車を合わせて審議を行う必要があるのではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長 高齢対策、福祉、見守り対策を合わせた地域の取り組みをご紹介いただき、行政も環境部門と福祉部門とがタイアップした形で取り組むことが非常に重要ではないかという方向性を提示していただきました。このような地域の取り組み等がありましたらぜひご紹介いただければと思いますが、他はいかがでしょうか。

○安部委員 うちの町内会でも資源回収について対策を考えているのですが、実際に新聞取らなくなっている方は多いと思います。特に若い方は本当に取らなくなっているように感じるので、今後ますます対策が必要になると思います。

○佐藤(幸)委員長 それでは 15 ページの市の取り組みの総合評価について、ご意見やご質問等あればいかがでしょうか。

○関矢委員 高齢化社会対策の中の高齢者のごみ出し支援について、昨年は直営で実施する予定だと伺いましたが、試行的に実施したことで、実際に始めてどのくらいの実績があったのか、またその後どのくらい増えているのかという実績値を分かる範囲で教えていただきたいと思いません。

○資源循環推進課長 福祉部高齢福祉課とタイアップし、昨年度から試行的に始めました。この支援収集は、現状として、高齢者の方々に対する直接的な支援ではなく、実際に高齢者のごみ出しを手伝っている方の負担を軽減したいという趣旨で実施しています。そこで、高齢者の方す

べてを対象としますと、今まで実施されていた支援や地域で見守ってくださっている方々、あるいは福祉サービスの方々が行うサービスの垣根を越えて過剰なサービスになってしまう恐れがありますので、福祉部と連携し調整しながら実施しております。現在は、11世帯等に対応しており、少ないというご意見もあるかと思いますが、これは地域の方々の支援が充実している結果ではないかと考えます。福祉サービス等の方々に対しましては、福祉部から周知を行っておりますので、今後この数字は伸びていくと思いますが、現在は支援をしている中で困っていらっしゃる方々を少しでも支援していきたいという考えで対策を行っております。

○佐藤(幸)委員長 集団資源回収の評価について、実態として数値を上げなければいけないという判断は、今の時代に適していないと委員の皆さんもイメージされているのではないかと思います。単に数字として目標に達する達しないではなく、達しないものであっても、審議会を通して評価の方法についての独自の判断をつくっていければいいのではないかと思います。集団資源回収は、例年評価方法について悩みが多いところではありますが、出来るだけプラス思考でとらえられるような評価を行うことが大切だと思います。

○米村委員 議論の中でも挙がりましたが、ペーパーレスや高齢化対策等の構造的に変えようがないものによって生じる課題と、努力すればもう少し進められる課題とあると思います。今回の計画では、目標設定自体において構造的に変えようがないことがあまり考慮されていないので、今後はそういった点を考慮して目標設定をしなければならないと思います。努力で進められる課題については、各地で各主体が行っている様々な取り組みを情報共有すると、もう少し進むかもしれません。ですから、市が全部背負って問題を抱え込んで、何か努力をしますということではなく、むしろ必要な人たちに協力してもらえようような取り組みを考えられた方がいいのではないかと思います。

○佐藤(幸)委員長 非常に建設的なご意見だと思います。事務局の方から何かありますか。

○資源循環総務課長 私個人の考えになってしまうのですが、ごみの減量化は今後も進めなければいけないと思います。しかし委員がおっしゃる通り、10年前と現在では計画の視点を変えていかなければならないと思います。一つ例を挙げますと、皆さんも最近よくテレビ等で見かけるかもしれませんが、食品ロスという問題があります。今年の5月に法案が通りまして、10月に施行され、現在国が方針をたてております。食品ロスを減らす取り組みを国全体で進めるため、国の基本方針を受け、努力規定ではありますが、都道府県や市町村は食品ロス削減に向けた計画策定が進められようとしています。おそらく今後、ごみの減量化という視点においては、食品ロスの削減が大きな課題になるのではないかと思います。横須賀市では、去年から食品ロスの調査を行っていますが、やはり食品ロスは発生しているというのが現状です。その中でも、野菜や果物が調理されないで捨てられていることが多いということが調査結果から分かりましたので、この

ような実態を踏まえ、市だけではなく市民の皆さんにも少しずつご協力いただけると、これからの計画の中でごみの減量化を進めるにあたり、一つの材料になるのではないかと思います。1人当たりのごみの量を減らすことはなかなか難しいことですが、生ごみの水切りやごみの分別同様、新たな視点として、食ロスの削減についても今現在意識して取り組んでいただいている方だけでなく、まだ取り組んでいただけていない方にもご協力いただき、地域全体で取り組んでいただくことが必要だと事務局では考えております。

○佐藤(幸)委員長　この件については委員の皆さんももっと議論したい点かと思いますが、事務局からお答えいただいたものを新しい基本計画において市としてもっと努力すべき指標とし、全体としてどういう判断基準をとるかという案を提示していただけるといふ決意表明かなと思いますので、ご理解を頂ければと思います。

○國分委員　7ページの③の食品ロスと食品ロス組成調査について伺いたいのですが、食品ロスとは何でしょうか。家庭からも企業からも出てくるものではないかと思うのですが、調査とはどのようなものですか。

○資源循環総務課長　手元に資料が無いのですが、数年前に神奈川県が食品ロス組成調査についてのマニュアルを作成しまして、そのマニュアルに基づいて昨年度より調査を実施しています。賞味期限が過ぎて捨てられてしまう物や作りすぎて食べきれずに捨てられてしまう物など理由は様々ですが、食べ残しや、手つかずのまま廃棄されてしまう直接廃棄、それから過剰除去という野菜の食べられる部分まで捨てられてしまっているものを、全てまとめて「食品ロス」と呼んでいます。横須賀市ではこの調査を去年初めて実施し、今年2年目になります。食品ロス削減の啓発を行うための根拠として、この調査の結果から横須賀市の現状を把握するために実施しています。昨年度の調査結果は、横須賀市のホームページに掲載しておりますので、もしよろしければご覧いただければと思います。時季や場所等によって結果は異なるので、一概に横須賀の傾向であるとは言えないのですが、継続的に調査をすることで少しずつ傾向が見えてくるのではないかと思います。神奈川県内では調査の方法を統一しようとしておりますので、横須賀市の食品ロスの量を県内の市町村と比較することも今後可能になると思います。もちろん食品ロスがゼロになるのが理想ですが、なかなか難しいところでもありますので、少しずつでも減らしていくことがごみの減量化につながると考えています。次回また詳しくご説明いたします。

○佐藤(幸)委員長　この辺りは次回にもう少し具体的な資料を出していただき、議論させていただいた方がいいかと思います。

（3）横須賀ごみ処理施設「エコミル」の稼働に伴うごみと資源物の分別変更について

○佐藤(幸)委員長　議題（3）横須賀ごみ処理施設「エコミル」の稼働に伴うごみと資源物の分別変更について、事務局よりお願いします。

○資源循環推進課長　（資料3に基づき説明）

○佐藤(幸)委員長　只今の説明についてご質問やご意見はありますか。

○佐藤(明)委員　事業系一般廃棄物については全く触れられていませんが、事業系一般廃棄物は今回の分別変更からは除外されています。事業系一般廃棄物は有料ですが、家庭ごみとして出してしまうと無料で捨てる事が出来るため、中小企業や飲食店のごみが家庭ごみとして出されてしまうリスクがあると思います。事業系一般廃棄物に関する周知は行っていますか。例えば商工会議所のようなところに向けた周知を行った方がよいと思うのですがいかがでしょうか。

○廃棄物対策課長　佐藤(明)委員がおっしゃる通り、事業系に関しましては剪定枝以外に分別変更はございません。変更がないということの周知については、12月の広報に分別変更が無い旨を掲載することと、事業系と直接関係はないのですが、分別パンフレット「ごみの分け方・出し方」の中にもその旨を少し記載しております。

○佐藤(明)委員　中途半端だと思います。せっかく商工会議所のような組織があるのですから、事業系の数も相当多いと思いますので、ぜひそのような組織を通して実施していただきたいと思っています。一般家庭向けばかりで事業者向けには実施しないというのは、非常に不満に思います。

○廃棄物対策課長　今アドバイスをいただきましたように、事業系一般廃棄物の周知について、商工会議所等と連携できるということであれば、ご協力いただきたいと考えております。

○上田委員　事業系ごみは飲食店が一番多いと思いますので、飲食店への周知は商工会議所等の組織を使っていくことも必要だと思います。しかし、商工会議所にきちんと入っていただくような業種ではない方もいますので、地域の中でルールを守らない方がいる場合は、地域を守るために声を上げることも大事だと思います。私の地域は飲食店が非常に多いですが、町内会に入られてない方もいます。この方々にも事業系のごみは有料で処分してくださいと伝えておりますが、ほとんどの事業者の方はルールを守っているのですが、ルールを守らないと逆にすごく目立ちます。家庭からは出ないようなごみが集積所に出ているような場合、ただ行政に頼むだけではなく、地域でも地域を守るという意識を持ち、地域と市が一体となって考えていかない限り、問題は解決しないと思います。最終的にパーフェクトにするのは難しいとしても、状況を少しでも改善する

ためには、行政と商工会議所等が連携し、お互いに出来ることに取り組んでいかなければ、ごみ問題というのは解決できないと思います。

○佐藤(幸)委員長　これについては今日のご意見を色々と検討し、次回に市の方で方向性を示していただくような形でよろしいですか。

○佐藤(明)委員　もう一つよろしいですか。今、紙類と鉄くずが大暴落しています。中国が一切紙類を買わなくなった今、紙類の行き場がなくなっていますので、おそらく近いうちに逆有償になるというような状況に直面しています。

○佐藤(幸)委員長　今の佐藤(明)委員の意見も参考にして、まとめていただきたいと思います。

(4) その他全般

○佐藤(幸)委員長　それでは、次の(4) その他全般について、今までのどの話題でも結構ですので、ご意見等ありましたらお願いしたいと思います。

○渡辺委員　我々生協では、食品ロスを中心に現在組合員と取り組みを進めております。神奈川県生協連で「フードバンクかながわ」という組織が開設され、組合員の中には災害用に備蓄していた食品を入れ替える際に残った食品を捨ててしまう方が多くいるとのことでしたので、残った食品の賞味期限まで2か月以上期間がある場合は、それらを組織に渡すことで、神奈川県内各市で活用してもらえらるという取り組みを行っています。また、買い物に行った際、賞味期限や消費期限を見て陳列棚の奥から商品を取る方が多いと思いますが、お店では賞味期限の短いものから手前に陳列していますので、奥から取られてしまうと賞味期限の短いものが残ってしまい、事業者は結局それを捨てなければいけなくなってしまいますので、すぐに食材を使う場合は陳列棚の手前から商品を取っていただけるように全ての地域で発信をしています。

○佐藤(幸)委員長　非常用食品の入れ替えというのは、どのくらい発信されているのでしょうか。生協の取り組みでは、食品ロス削減のターゲットとしてどのように位置付けているのかも教えていただきたいと思います。

○渡辺委員　組合活動として月に一回集まっている方々を中心に検討し、ニュースのようなものを発行しているのですが、そこで食品ロスについて掲載するような形です。実際どの程度啓発効果があったのかはまだ分かりませんが、そのような形で地域の方に発信をしています。

○佐藤(幸)委員長 「フードバンクかながわ」は生協の組織ですか。

○渡辺委員 公益社団法人です。神奈川県金沢区の富岡にあります。

○佐藤(幸)委員長 こういったご意見も市の方で検討して取り入れていただくと良いのではないのでしょうか。

○渡辺委員 横須賀市は直接契約をし、活用しているという話を聞いています。

○資源循環総務課長 「神奈川フードバンクプラス」という別の団体ではありますが、昨年からアィクルフェアの中で賞味期限が切れる前の食品を持ってきていただき、集まった食品を団体の方に送らせていただくという取り組みを行っています。少しずつではありますが、市の方でもそういった取り組みを始めております。

○鈴木委員 私は3年前に「キエーロ」を自宅に設置しましたが、非常に使い易くこの3年間我が家から生ごみの排出はゼロになりました。ごみの減量にも貢献していると思います。マンションでも使用可能なので、横須賀市の世帯の1割～2割の方が使用するだけでも、かなりごみの減量化につながると思います。

○國分委員 私も同じことをしています。生ごみはすべて土に埋めているので捨てたことはありません。

○佐藤(幸)委員長 このような意見はぜひ広報や基本計画のコラムに掲載するなどして、少しでも近寄り易い基本計画を作る材料にしていいただければと思います。

○國分委員 土のある家に住んでいる方はぜひ生ごみを埋めてほしいと思います。自宅の庭で植物などを育てる際の良い肥料となります。三浦半島は温暖なので、柑橘類をお勧めします。

○佐藤(幸)委員長 そろそろ時間になりましたので、事務局の方にお返ししたいと思います。連絡事項等をお願いします。

○資源循環総務課長 冒頭でスケジュールの話をしていただきましたが、例年は年2回審議会を開催しておりましたが、今回の委員の皆様には基本計画を作成していただきますので、来年度は審議会の回数が増える予定です。多くの負担をかけてしまうかと思いますが、本日のように建設的なご意見をいただきながら、基本計画を作成していきたいと思いますので、よろしくお願いたします。続きまして、本日の議事概要につきましては、出席された委員全員に内容をご

確認いただいた後に、公開とさせていただきます。議事概要案は作成次第、各委員に送付いたしますので、発言内容等のご確認をよろしくお願いいたします。また、次回の審議会の開催は、1月下旬を予定しております。日にちが近くなりましたら、改めて通知をさせていただきます。なお、本日お車で来庁され北口駐車場をご利用された方は、駐車券の処理をさせていただきますので、お近くの事務局員にお声掛けください。事務局からは以上です。

○佐藤(幸)委員長　事務局からエコミルの視察見学等の予定があればお知らせください。

○資源循環総務課長　未だ決定事項ではなく予定の段階ではありますが、次回の1月の審議会の際は、本日子ちんと回答できなかったものについて審議会の中でご回答させていただき、1時間程度で審議会を終了後、会場からエコミルまで移動し、施設内を1時間程度見学していただきまして、市役所にて解散という形を取りたいと考えております。前任期の委員の皆さまにはエコミルについて紙面でのご説明しか出来ずに大変申し訳なかったのですが、新しい計画を作成するにあたり、新しいごみ処理施設をご覧いただき、施設にどのような機能があるのかを知っていただくことで、計画にどのような政策を盛り込むことが出来るのかということをご検討いただきたいと思いますので、見学の際は施設にいる専門の職員に疑問点についてご質問いただければと考えております。調整を進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

○佐藤(幸)委員長　今日はこれですべての議題が終わりましたので、これをもちまして、横須賀市減量等推進審議会を閉会したいと思います。皆様大変お疲れ様でした。